

「将来のうつのみや像（都市像）」案について

基本構想の「まちづくりの目標」の項目において、「まちづくりの基本方向」に沿って「まちづくりの重点課題」が解決され、2050年に目指すべきまちの状態に到達したときの宇都宮市の姿を、「将来のうつのみや像（都市像）」として示す。

「将来のうつのみや像（都市像）」案は、まちづくりの基本方向として示す6つの「未来都市」や「まちづくりの好循環の創出」のイメージを包含するとともに、宇都宮らしさや市民にとっての親しみやすさ、覚えやすさといった観点も重視し作成する。

案) 輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや

【イメージ】

○ 輝く人の和（8字）

⇒ ※主に「子育て・教育の未来都市」、「健康・福祉の未来都市」を表現している。

- ・市民が豊かさを享受できる。
- ・市民が幸せに暮らし続けることができる。
- ・多様で充実した人材を有する。
- ・あらゆる分野の人づくりと次代への継承が行われている。
- ・多様な生き方や考え方を寛容に認め合う（調和）。
- ・子どもたちの笑顔があふれ、夢を抱き、実現させることができる。
- ・健康で幸せに暮らし続けることができる。 など

○ つながるまちの環（8字）

⇒ ※主に「安全・安心の未来都市」、「交通の未来都市」を表現している。

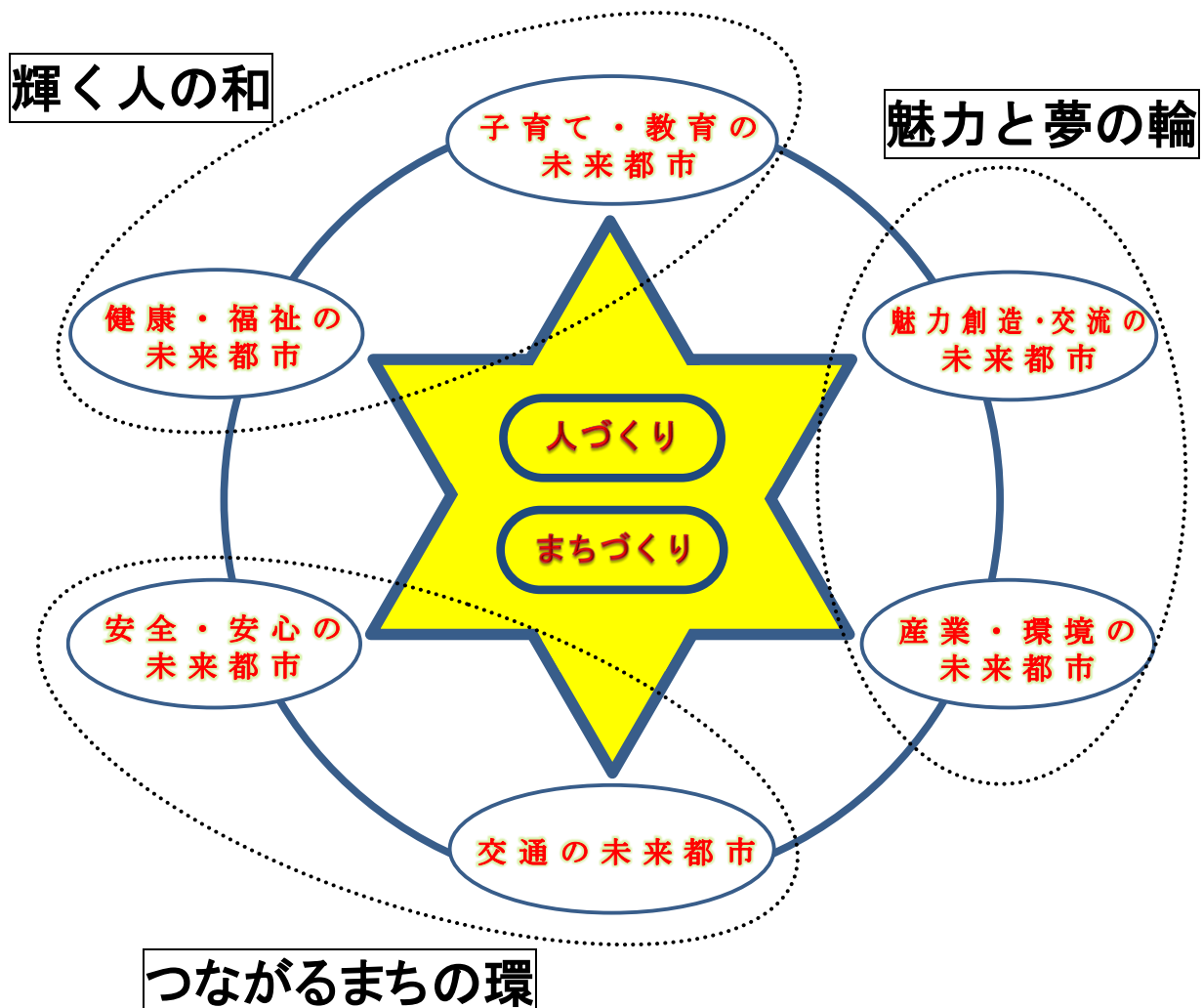
- ・宇都宮市が目指す都市構造「ネットワーク型コンパクトシティ」が形成されている。
- ・LRTをはじめとした公共交通の充実により自由に移動できる。
- ・人のつながり、あたたかさがある。
- ・世代や分野を越えた人と人の「絆」や地域の結びつきが強い。
- ・市民が支え合い、力を合わせる協働の環境が整っている。
- ・多様な生き方や考え方を寛容に認め合うことができる。 など

○ 魅力と夢の輪 (8字)

⇒ ※主に「魅力創造・交流の未来都市」、「産業・環境の未来都市」を表現している。

- ・人が集い、活気に満ちている。
 - ・自然・歴史・文化などの地域資源、特性を生かしたまちづくりが行われている。
 - ・国内外に魅力を発信している。
 - ・地域内で安定した雇用が確保され、夢を持って暮らせる。
 - ・本市の多様な産業が活性化されている。
 - ・循環型社会が構築されている。
- ・自転車のまち（輪都）として国内外に認知されている。 など

「将来のうつのみや像（都市像）」案と「まちづくりの好循環」の関連性のイメージ



【参考】

○本市の都市像の変遷

1 第1次総合計画(昭和46年度策定)

／小池市長／○経済の高度成長と生活水準の向上 ○人口の都市集中と市街地の拡大
「住みよい、豊かな活力ある都市」

2 第2次総合計画(昭和51年度策定)

／小池市長／○オイルショックを契機とした経済発展基調の変化
○公害問題など都市環境の悪化 ○コミュニティ意識の希薄化
「心のかよい合う 人間性豊かなまち宇都宮」

3 第3次総合計画(昭和61年度策定)

／増山市長／○社会、経済の成熟 ○技術革新、情報化、国際化、高齢化の進展
○モノの豊かさより、生活の質や真の精神的豊かさを求める市民意識の変化
「恵まれた四季を愛し、新しさを生み、やさしさを育て、楽しさを広げるまち宇都宮」

4 第4次総合計画(平成9年度策定)

／増山市長／○地球共生時代 ○少子・高齢時代 ○高度情報時代 ○個性重視の時代
○分権の時代
「ひとに活力 まちに魅力 未来へ羽ばたく つといの都うつのみや」

5 第5次総合計画(平成19年度策定)

／佐藤市長／○少子・高齢社会、人口減少の時代 ○地球環境問題の深刻化の時代
○ボーダーレス社会の進展の時代 ○人間回帰の時代 ○分権型社会の進展の時代
「くらしいきいき まちキラキラ つながる人・夢のみや うつのみや」

○中核市の将来都市像 …参考1参照